

鳥取県の政策に関する県民意識調査  
結果報告書  
(平成28年10月調査)

平成29年1月



# 目 次

	ページ
<b>【 調査の概要 】</b>	
1 調査の目的.....	1
2 調査の概要.....	1
3 資料のみかた.....	1
4 回収状況と信頼区間.....	2
<b>【 結果の概要 】</b>	
結果の概要.....	3
<b>【 調査結果 】</b>	
<b>I 鳥取県の住みやすさについて</b> .....	6
問1 あなたは、鳥取県に対して愛着や誇りを感じていますか.....	6
問2 あなたが、今暮らしている地域の住みやすさを教えてください.....	8
問3 あなたが今、鳥取県内に暮らしていて、次の項目(設問)についてどう思われますか.....	10
<b>II 鳥取県の施策の満足度と今後の優先度について</b> .....	11
問4-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の満足度.....	11
問4-1-1 「豊かな自然でのびのび鳥取らしく生きる」取組の重要度.....	12
問4-2 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の満足度.....	14
問4-2-1 「人々の絆が結ばれた鳥取のまちに住む」取組の重要度.....	15
問4-3 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の満足度.....	17
問4-3-1 「幸せを感じながら鳥取の時を楽しむ」取組の重要度.....	18
問4-4 「県政のさまざまな取組」の満足度.....	20
問4-4-1 「県政のさまざまな取組」の重要度.....	21
<b>III 重点施策への関心・認識</b> .....	23
問5 鳥取県の人口減少の認識度.....	23
問6 鳥取県の人口増への取組として優先すべきだと思う施策.....	24
<b>《子育て施策について》</b>	
問7 鳥取県で行われている子育て施策の認識度.....	26

問 8	出生率を上げるための今後の強化策 .....	28
問 9-1	鳥取県の婚活支援事業について .....	30
問 9-2	鳥取県が婚活支援事業を行うことに対する意見 .....	32
問 10	鳥取県の子育て施策に関する意見 .....	34

《移住定住に関する施策について》

問 11	鳥取県の移住定住施策として強化が必要な施策 .....	36
問 12	鳥取県の住みよさを県外にアピールする項目 .....	38
問 13	鳥取県の移住定住施策に対する意見 .....	40

《就業や雇用に関する施策について》

問 14	「鳥取県正規雇用1万人チャレンジ計画」の認識度 .....	42
問 15	鳥取県内の雇用や就業支援に関する県の取組の強化策 .....	44
問 16	今後、鳥取県において必要となってくる産業分野 .....	46
問 17	鳥取県の就業や雇用に関する施策に対する意見 .....	48

<b>IV</b>	<b>回答者の情報</b> .....	<b>50</b>
1	性別 .....	50
2	年齢 .....	50
3	職業等 .....	52
4	居住地域 .....	52

**【 資料 】**

調査票 .....	54
集計結果 .....	62

# 【 調 査 の 概 要 】

## 1 調査の目的

鳥取県では、人口減少・少子高齢化の現在の状況下でも、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、将来にわたって発展していくために、地方創生総合戦略「鳥取県元気づくり総合戦略」を策定するなど、鳥取県の元気づくりを進めています。

この調査は、「鳥取県元気づくり総合戦略」に掲げる施策をはじめとした鳥取県政全般について、皆さんの関心や御意向・要望等を把握し、今後の県政推進の基礎資料として活かすため、無作為で選ばせていただいた県内在住の18歳以上の方2,746人(震災のため倉吉市を除く)を対象に実施したものです。

## 2 調査の概要

- (1) 調査対象 鳥取県内在住の18歳以上の者 2,746名
- (2) 抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出法
- (3) 調査時期 平成28年10月
- (4) 調査方法 (2)により抽出した者に対し、郵送により調査票を送付して実施した。なお、調査票の提出は無記名とした。
- (5) 有効回答数 1,334名
- (6) 回収率 48.6%(1,334/2,746)

## 3 資料のみかた

### (1) 比率(%:パーセント)の表示について

原則として、各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象に2つ以上の回答を求める設問では、百分率の合計は100%を超える。また、百分率は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示した。

### (2) 「無回答」の取り扱いについて

以下については「無回答」として取り扱うこととした。

- ・回答が選択されていない場合
- ・回答数の制限を超える回答が選択されている場合

例:「○は1つだけ」という条件のある設問で2つ以上の回答を選択した場合など

### (3) 選択された回答に矛盾がある場合の取り扱いについて

排他カテゴリ※ 以外の選択肢を採用することとした。

※排他カテゴリ...2つ以上選択できる設問の「必要ない」「わからない」などの選択肢

### (4) 調査項目の「合計」の不一致について

クロス集計※ の「合計」と単純集計の「合計」は一致しない。これは、クロス集計には、性別、年齢などが記載されていないものは含めていないためである。

※クロス集計...性別、年齢や他の質問項目をかけ合わせてデータの分析や集計を行うことにより、相互の関係を明らかにするための集計方法

## 4 回収状況と信頼区間

### (1) 必要標本数について

今回の調査においては、18歳以上の県人口 482,785 人(平成 28 年 9 月現在)から無作為に、2,746 人を抽出し、調査の依頼を行った。そのうち有効回答数は 1,334 人であり、回収率は 48.6%であった。

まず、標本数の設定については、次の式によって与えられる。

$$A = \frac{N}{\left[\frac{\varepsilon}{X(\alpha)}\right]^2 \cdot \frac{N-1}{\sigma^2} + 1}$$

A = 必要標本数

$\alpha$  = 推定を誤る確率

$X(\alpha)$  = 正規分布の性質から与えられる値(1.96)

N = 母集団の大きさ(満 18 歳以上の県民)

$\sigma^2$  = 母分散

$\varepsilon$  = 精度

本調査では、信頼度を、95%とし計算を行った。この場合、 $X(\alpha)$ は、1.96 であり、母集団の大きさは 443,056 人。精度を仮に 3%、母比率を 50%とし、それぞれ代入して計算すると、以下のとおりとなる。

$$A = \frac{482,785}{\left[\frac{3}{1.96}\right]^2 \cdot \frac{482,784}{50 \times 50} + 1} = 1,064.7599$$

よって、今回の調査において必要な最小標本数は 1,065 人であり、有効回答 1,334 人はこの条件を満たしているといえる。

### (2) 標本誤差について

有効回答票の標本誤差を次の式によって計算した。

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{N-n}{N-1}\right] \cdot \frac{Q(100-Q)}{n}}$$

B = 標本誤差

N = 母集団の大きさ(満 18 歳以上の県民)

n = 回答者総数(1,334 人)

Q = 回収率(48.6%)

$$B = \pm 1.96 \cdot \sqrt{\left[\frac{481,451}{482,784}\right] \cdot \frac{48.6(100-48.6)}{1,334}} = \pm 2.68$$

すなわち、標本誤差は  $\pm 2.7\%$  しかないといえる。